



ThreeBond



2022

JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.5

RACE REPORT



SPORTSLAND SUGO



初ポイント獲得

2022 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 4 大会（第 5 戦）が、6 月 18 日（土）～19 日（日）にかけて宮城県のスポートランド SUGO で開催された。

全長 3.6km 弱とシリーズでは最も短く、しかもアップダウンに富むコースレイアウトを考慮し、チームは走行中の姿勢変化に伴う空力特性を安定させる方向でリヤのダンパーを中心にこれまでとは異なるアプローチでセッティングを見直し、サーキットへ持ち込んだ。

公式予選

東北地方は 6 月 15 日に梅雨入り宣言していたが、公式予選が行われる土曜日のスポートランド SUGO は晴天となり、気温が上昇した。

午前中のフリー走行を走り出したドライバーの福住仁嶺選手（以下、福住選手）はマシンの感触に手応えを感じ、ピットインを繰り返しセッティングの微調整を重ねて午後 2 時 15 分から 10 分間の公式予選に備えた。

公式予選 Q1 B 組に出走した福住選手は 2 周をかけてタイヤをウォームアップしタイムアタックに入ると、1 分 5 秒 075 を記録。その時点で出走 11 台中 5 番手につけた。その後、順位は 6 番手に繰り下がったものの無事に Q2 進出を果たした。

ノックアウト予選形式が 3 ステージ制だった昨年は、シリーズ第 3 戦で塚越広大選手が Q2 進出を果たし、スターティンググリッドを 9 番手につけているが、予選形式が今年から 2 ステージ制へ変更されてからは初めての Q2 進出となった。

午後 2 時 40 分から公式予選 Q2 を前に上空には薄い雲が広がった。福住選手は 7 分間のセッションが終わる直前にタイムアタックに入ると、1 分 4 秒 913 を記録。Q2 出走 12 台中 6 位につけて最終的にスターティンググリッドは 21 台中 6 番手となった。

6 番手スタートは 2019 年のチーム創設以来の最上位という結果にチームも歓喜した。

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	# 1 野尻 智紀 1'04.349
2	# 4 サツマ・フェストラフ 1'04.706
3	# 6 大津 弘樹 1'04.785
6	# 12 福住 仁嶺 1'04.913



決勝レース

6月19日(日)午後2時30分、決勝レースのスタートが切られた。

6番手グリッドの福住選手は一瞬加速が鈍ったが、後方車両も同様にスタート加速が鈍ったことにも助けられ、6番手ポジションを守ったまま第1コーナーに飛び込んだ。

その直後、後方でアクシデントが発生したためセーフティーカーが導入され隊列走行が6周目終了時点まで続いた。しかしレース再開直後に再びアクシデントが発生して再びセーフティーカーがコースイン、隊列走行が再度始まった。

この隊列走行は、規則上タイヤ交換義務を果たすためのピットストップが可能になる10周目完了時点まで続きそうな状況だったことから、ここで各チームの戦略が別れることになった。

上位陣は10周完了時点でピットインしタイヤ交換を行い、残りの周回数をそのまま駆け抜けるオーソドックスな戦略を選んだが、中団以降のチームはここではピットインせずタイヤ交換を遅らせる、いわゆるステアアウト戦略を選んだ。

福住選手は10周完了時点でピットイン、タイヤ交換を行ってコースに復帰した。この時点でステアアウト勢は前方へ繰り上がり、福住選手の見かけ上の順位は12番手へと後退した。

その後、セーフティーカーは14周完了時点で退き、レースが再開された。

レース再開後の福住選手はステアアウト勢にタイムの計算上、前へ行かれないようペースを上げなければならなかったが、ペース維持に集中する走りとなり、見かけ上、前方車両、後方車両との間隔が1秒から2秒へ開いて膠着状態となった。

レース終盤、ステアアウトしていた9番手スタートの牧野任祐選手が福住選手の前でコースに復帰、さらに16番手スタートの平川亮選手が最終ラップとなる49周目の1コーナーで福住選手に追いついてオーバーテイクしたので、福住選手のポジションは結局8番手へ下がった。

レースは当初53週の予定だったが、2回のセーフティーカー先導走行のため規定のレース最長時間を超えてしまい49周で打ち切られることになった。

結果、福住選手は49周を走りきって8位でチェッカーフラッグを受けた。

チーム創設以来最上位の8位入賞を果たした福住選手はシリーズポイントの3点を獲得、ドライバーランキング16番手につけてレースを終えた。



ドライバー／監督コメント

ドライバー 福住 仁嶺 コメント

今回は、今まであまり手を出してこなかったところにも変更を加えて前回と大きく変えたクルマを持ち込んだので、走り出しからある程度手応えがありました。土曜日のフリー走行では、まだまだ少し欲しいという状況だったので、そこでまた考えて予選に向けて少しずつアジャストしたことがうまく働いて 6 番手グリッドを獲得出来たのだと思います。ただ、決勝レースでは序盤からグリップ感があまりなくペースとしては苦しいレースになり、前を抜けるような状況ではなかったため、ポジションをキープするために少しでもタイムロスをしないうち 1 周 1 周大事に走りました。チームとして初めてのポイントは素直に喜んでいいと思うし、自分でもとても嬉しいです。でもまだまだライバルとの差を見せつけられている状況なので、もっと前に行けるように、次回富士でのレースに向けて準備を進めたいと思っています。



監督 道上 龍 コメント

チーム 3 年目でようやく初ポイントを獲得することができました。予選順位があそこまで上がったのは間違いなくパフォーマンスが上がったということだと思います。ただ、ポイントを獲得したのは良かったのですが、スタート順位からポジションを落としてしまったので、それを考えると、やはりまだレースペースが足りていないと痛感すると共に監督として反省しています。平川選手のペースで走れることを考えると、今の我々にはまだ改善が必要です。セーフティカーがいつまで続くかわからなかったため早めにピットインした作戦は間違っていないと思います。次戦富士の第 6 戦でどんなパフォーマンスを見せられるか、今回やってきたことが富士で良い方向へ行くかどうか、今回の SUGO は特殊なコースだっただけに、次戦に向けてレースをもう一度振り返って、チームでミーティングをして慎重に準備を進めたいと思っています。



チーフエンジニア 伊与木 仁 コメント

正直なところ、3 ポイントを獲得するのにこんなに苦労するとは思いませんでした。今回はレース中、一時的に太陽が陰って温度が下がったときのペースが上げきれなかったためポジションを落としてしまったのだと分析しています。予選ポジションが上がったとはいえ、速く走らせる方向性が 100% 見えたとはいえない状況です。結局はデータや外部情報を組み立てた結果であって、決して自分の頭の中で全て納得して作ったクルマではないからです。去年、一昨年には塚越選手に乗ってもらって Q2 へ進出したりもしていますし、ポイントが獲れそうなレースもありましたが、今シーズン前の方を走っているチームは、当時のレベルからもう 1 歩進歩していて、そこになんとか追いつかなければなりません。今回見えた方向をうまく伸ばす方向で、富士でのレースに備えます。



レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	4	サッシャ・フェネストラズ	KONDO RACING	1:10'32.529
2	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1:10'37.833
3	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	1:10'39.550
4	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:10'39.675
5	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:10'43.416
6	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:10'44.183
7	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	1:10'47.494
8	12	福住仁嶺	ThreeBond DragoCORSE	1:10'50.600
9	18	国本雄資	KCMG	1:10'51.691
10	15	笹原右京	TEAM MUGEN	1:10'52.003
11	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	1:10'53.864
12	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	1:10'54.935
13	36	ジュリアーノ・アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:10'55.220
14	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	1:10'57.712
15	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	1:11'00.747
16	53	佐藤蓮	TEAM GOH	1:11'05.483
17	7	小林可夢偉	KCMG	1:11'05.717
18	55	三宅淳詞	TEAM GOH	1:11'07.557
19	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	1:11'13.073
DNF	50	松下信治	B-Max Racing Team	—
DNF	3	山下健太	KONDO RACING	—



Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	富士	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	野尻智紀	81	15	3+20	3+15	3+8	3+11					
2	平川亮	64	1+20	15	4	20	4					
3	サッシャ・フェネストラズ	57	11		1+8	15	2+20					
4	宮田莉朋	32	6	2+11		2+6	5					
5	牧野任祐	30	5		11	1+5	8					
6	松下信治	21			20	1						
7	大湯 都史樹	19	4				15					
8	三宅淳詞	18	1	6		11						
9	大津弘樹	16		4	3	2	7					
10	関口雄飛	13	8	5								
⋮												
16	福住仁嶺	3	-	-	-	-	3					

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	鈴鹿	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	carenex TEAM IMPUL	76	28	20	4	20	4					
2	TEAM MUGEN	75	15	21	15	12	12					
3	KONDO RACING	62	11	8	8	15	20					
4	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	44	5	4	14	7	14					
5	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	31	6	14		6	5					
6	B-Max Racing Team	21			20	1						
7	TCS NAKAJIMA RACING	21	4		2		15					
8	TEAM GOH	21	3	6	1	11						
9	KCMG	15		2	11		2					
10	P.MU/CERUMO・INGING	6	3			3						
11	ThreeBond Drago CORSE	3	-	-	-	-	3					

